

# 旭労災病院ニュース

病院情報誌 第20号 平成19年7月1日発行

発行所：旭労災病院

〒488-8585

尾張旭市平子町北61番地

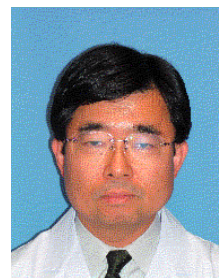
TEL 0561-54-3131

FAX 0561-52-2426

<http://www.asahih.rofuku.go.jp/>

## オムツと子宮留膿症

産婦人科部長 齋藤 満

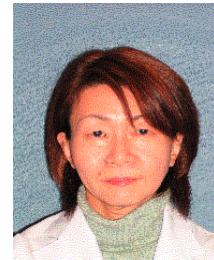


高齢者に子宮留膿症が増えているような気がします。子宮留膿症は子宮内膜に感染が起こり子宮腔内に膿が溜まる疾患です。筆者自身、昭和50年代後半から平成初期にかけて大学病院や地域の中核病院に勤務していたときにはほとんど経験しなかった疾患ですが、当科に赴任以来2年間で6例も経験し、頭書のような印象を持ったわけです。この6例を調べてみると共通点があります。すべてが介護施設や医療施設に入所しており、脳梗塞や神経疾患、認知症などの基礎疾患があり歩行はできず車椅子移動、排泄も全介助でオムツを使用しています。やはりオムツ内で外陰部が便に汚染され膣から子宮へと感染が広がったと考えるのが妥当で、実際起炎菌も大腸菌が最も多く、そのほか腸球菌やセラチアなど大便中に存在する菌のみでした。子宮体がんで子宮留膿症が起こることがありますが当科の症例はすべて単純な感染症で、便による汚染で発症したものと思われまます。オムツと子宮留膿症との関係を示すエビデンスはありませんが、予防のためには介護者がオムツのチェックを頻繁にして外陰部を清潔に保つことが大切であると考えられます。子宮留膿症を研究している国立長寿医療センターの西川先生によると1日5回のオムツのチェック（“オムツ回診”と呼んでいる）と陰部洗浄が予防に有効で、この方法を取り入れて以来院内での発生を見ていないそうです。高齢化が進みオムツ使用者が増え、子宮留膿症予備軍も今後増加することが予想されます。在宅・施設入所にかかわらず、介護・看護の方法により子宮留膿症は増加も減少もあり得る疾患であるという認識が必要でしょう。

高齢者の子宮留膿症の症状は性器出血が主で帯下の増加もみられます。全身状態には変化がないことがあり注意が必要です。オムツ使用者で出血や帯下がみられたら婦人科を受診させてください。通常は子宮腔洗浄と抗菌剤投与で1週間から10日程度で治癒します。

# 音楽療法—カンガルークラブ—について

小児科部長  
安藤 郁子



乳児健診などで発達の異常を指摘されて受診される患者さんがいます。診察の結果、精神運動発達遅延や脳性麻痺、自閉症を含む軽度発達障害などの疾患が疑われる方がいますし、一方では、自分の子供とどう係わってよいかわからない親が多く、それが原因と思われる発達障害の可能性もあります。いずれにしても一度の診察で確定はなかなか難しく、しばらく親と子供の様子をじっくり見てみないと判断できないことが多いものです。また専門医へ受診した方がよいと思われても何ヶ月も先しか予約が取れず、また診断されてもその後どのように療育していったらよいのかの指導が不十分で途方にくれてしまう方がいるのが現状です。当院で行っている音楽療法(カンガルークラブ)は親子で参加して頂き、子供の発達状況を観察する目的と発達障害児の療育の場として平成12年から始めたものです。これは日常の診療とは全く別で、患者確保や収益に繋がるものではありませんが、少しでも子育て不安や障害児療育の役に立てればと、私の友人の音楽療法士2名を中心に、言語療法士やボランティアが参加し、毎月一回、土曜日の午前におこなっています。音楽療法とは音楽の持つ心理的な効果を媒体に子供達のいろいろな能力の向上を目指します。たとえば音楽に合わせて踊れば子供の運動能力が高まる、美しい音色の楽器に触れながら順番待ちなどの社会的なルールを身につける、歌詞で言葉を覚えるなど、傍目からみたら、「小児科がなにやら子供とドンチャン騒ぎしている」と思われているかもしれませんが、今までに参加した子供の中には脳性麻痺の子供が歩けるようになったり、自閉症の子が集団で落ち着いて遊べるようになったり、その効果は私自身が考えていたよりも高いと思います。対象年齢は生後6ヶ月以降就学前ころまで。定員は毎回10名程度。参加無料です。子供の発育に不安を感じているお母さんたちの相談がありましたら、ぜひご紹介ください。お問い合わせは小児科外来まで。